

福岡地域戦略推進協議会（FDC）とは

■ 福岡都市圏の成長戦略を策定から推進まで一貫して行うシンク&ドゥタンク

達成すべきこと

- 国際競争力の強化による福岡都市圏の持続的な成長
- 域内総生産 = 営業利益 + 人件費 + 減価償却費 + 賃借料 + 租税公課 + 特許使用料

2011年4月設立

産学官が一体（民官の資金・人材拠出）

会長	麻生 泰	一般社団法人九州経済連合会 会長
副会長	久保 千春	大学ネットワークふくおか 会長
	高島 宗一郎	福岡都市圏広域行政推進協議会 会長

137の会員

- 正会員 94
- 特別会員 7
- 賛助会員 36



世界のイノベーション都市の動向

世界のイノベーション都市の共通項

- メガシティにない「コンパクトさ」が強み
 - 都市圏人口が200万人前後
 - 規模の論理から距離の論理
- 優れた人材を惹きつける「生活の質の高さ」(クオリティ・オブ・ライフ)
 - 豊かなアートや自然環境
- イノベーションのエコシステムを支える先駆的な教育機関との密接な関係



産官学民が共にオープン・イノベーションに取り組む都市の例

- 地元のイノベーション創出機関と連携
 - コペンハーゲン市とデンマークデザインセンターが共同して交通問題、環境問題等の都市問題を解決する取り組みを行っている。
- 国際公募によるソリューションの導入への取り組み
 - Citymart.com
 - バルセロナ・オープン・チャレンジ
- 国際公募によるビジネス加速化事業
 - フィラデルフィア市の FastFWD
 - サンフランシスコ市のアントレプレナー・イン・レジデンス

産官学民が協力して運営している問題解決のためのイノベーション機関の例

これらの機関でも市民やスタートアップの参加が重要な要素になっている



イノベーション都市としての福岡の強み

イノベーション都市としての 福岡の強み

■ 人材の多様性、市民力

- 起業家、スタートアップが豊富
- クリエイティブ産業の集積
- コミュニティ、地域活動が活発
- 学生・留学生などの若者の集積

■ 産学官民の距離が近い

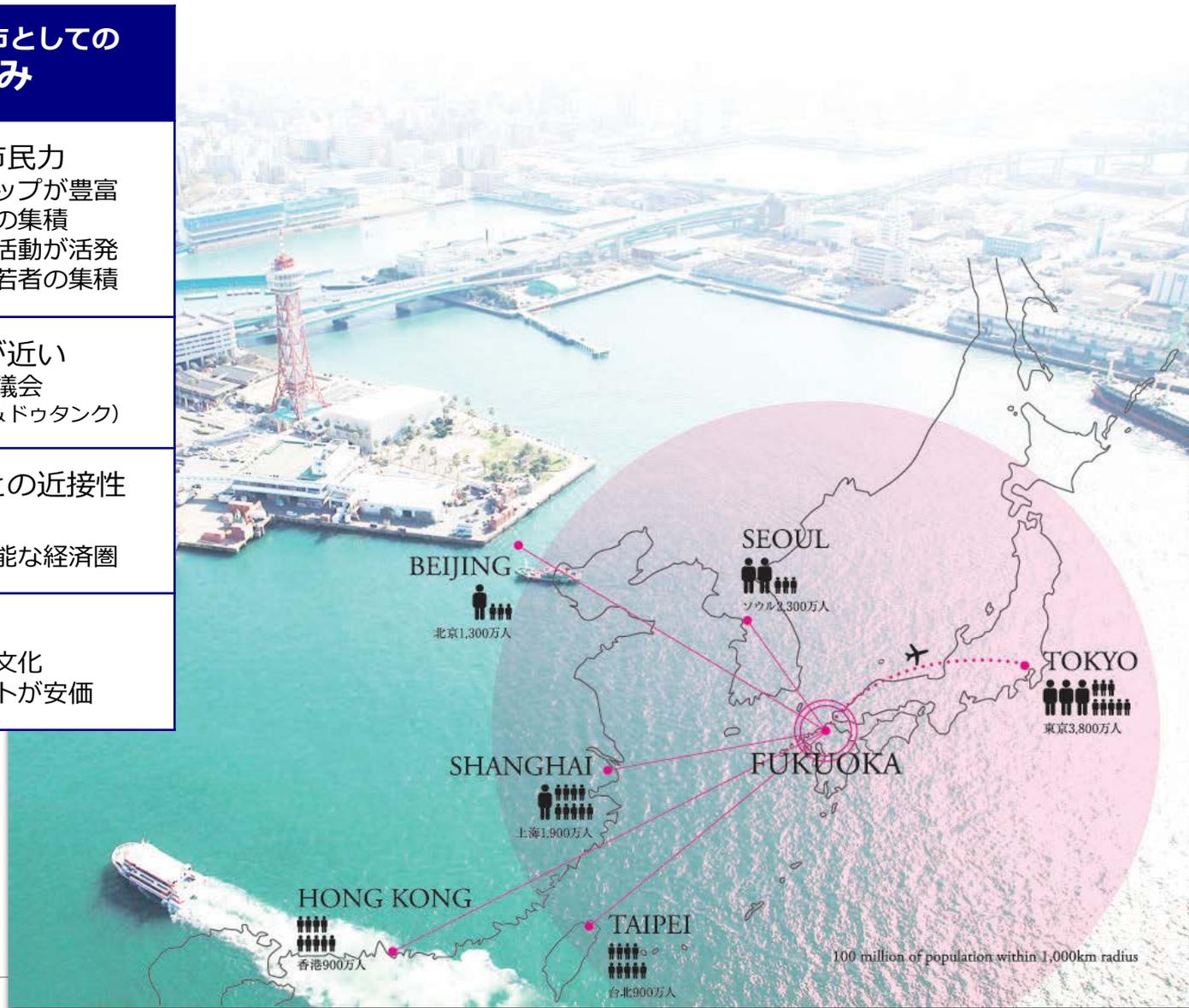
- 福岡地域戦略推進協議会
(オール福岡体制のシンク&ドゥタンク)

■ 活気あるアジアとの近接性

- アジアの玄関口
- 世界最大の日帰り可能な経済圏

■ 生活の質が高い

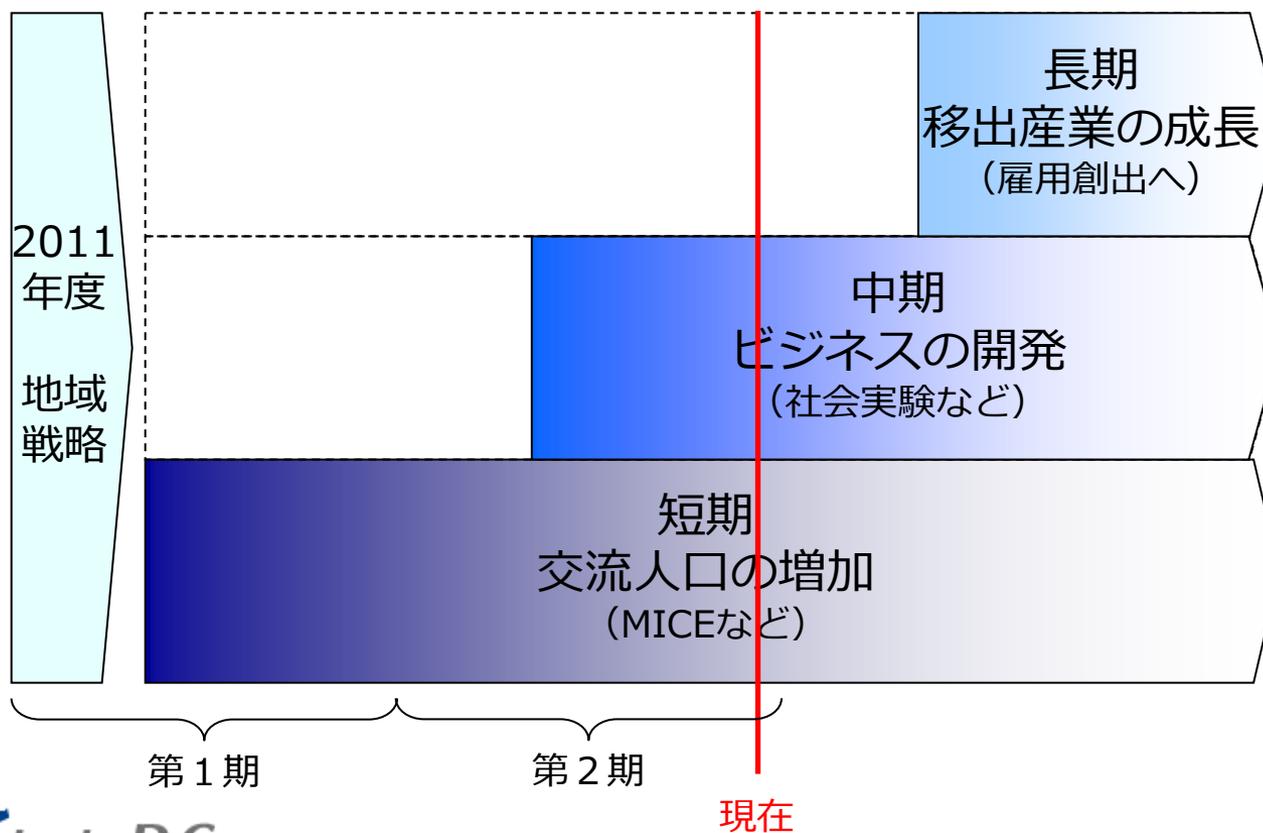
- 豊かな自然環境、食文化
- 生活、ビジネスコストが安価



地域戦略

■ 交流の活性化により 質を重視した成長をはかる

1. 域外に向けて挑戦する環境をつくる
2. 人材の多様性を強化する
3. 革新的・創造的な交流の場をつくる



戦略テーマの絞込み

事業採算性
(勝算、実現可能性)
(担い手の見通し)

8つの重点産業分野

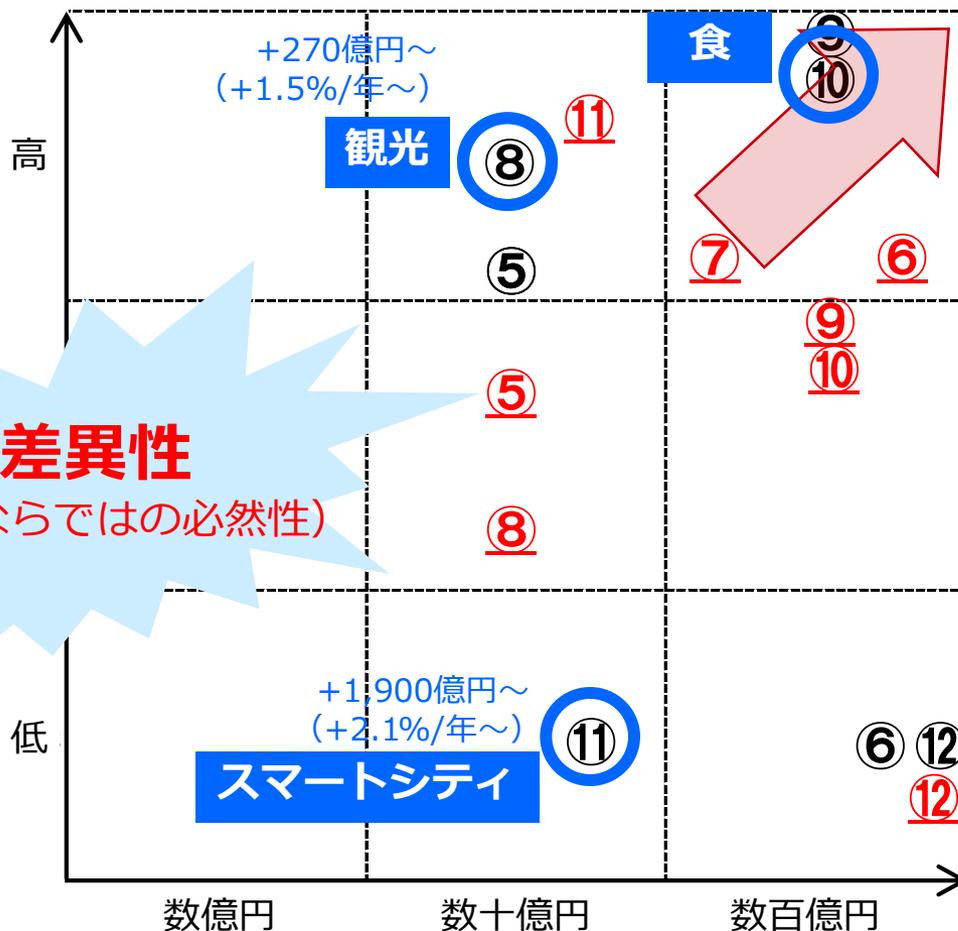
- ⑤ 高等教育の産業化
- ⑥ デジタルコンテンツ産業
- ⑦ ファッション産業
- ⑧ 集客・交流の産業化
- ⑨ 通販ビジネスの高度化
- ⑩ 食の6次産業化、海外展開
- ⑪ 生活関連サービスの高度化
- ⑫ グローバル企業・施設の誘致

+1,200億円～
(+1.5%/年～)

+270億円～
(+1.5%/年～)

観光

食



8つのビジネス基盤

経済基盤

中小企業振興

資金調達

人材開発

社会実験

街づくり

都心

ウォーターフロント

交通ネットワーク

住環境

スマートシティ

+1,900億円～
(+2.1%/年～)

黒 = 福岡都市圏

赤 = 全国 (平均)

成長性
(10年後の市場規模)
(九州への波及効果)

16の戦略テーマを踏まえ、5つの部会で事業を推進

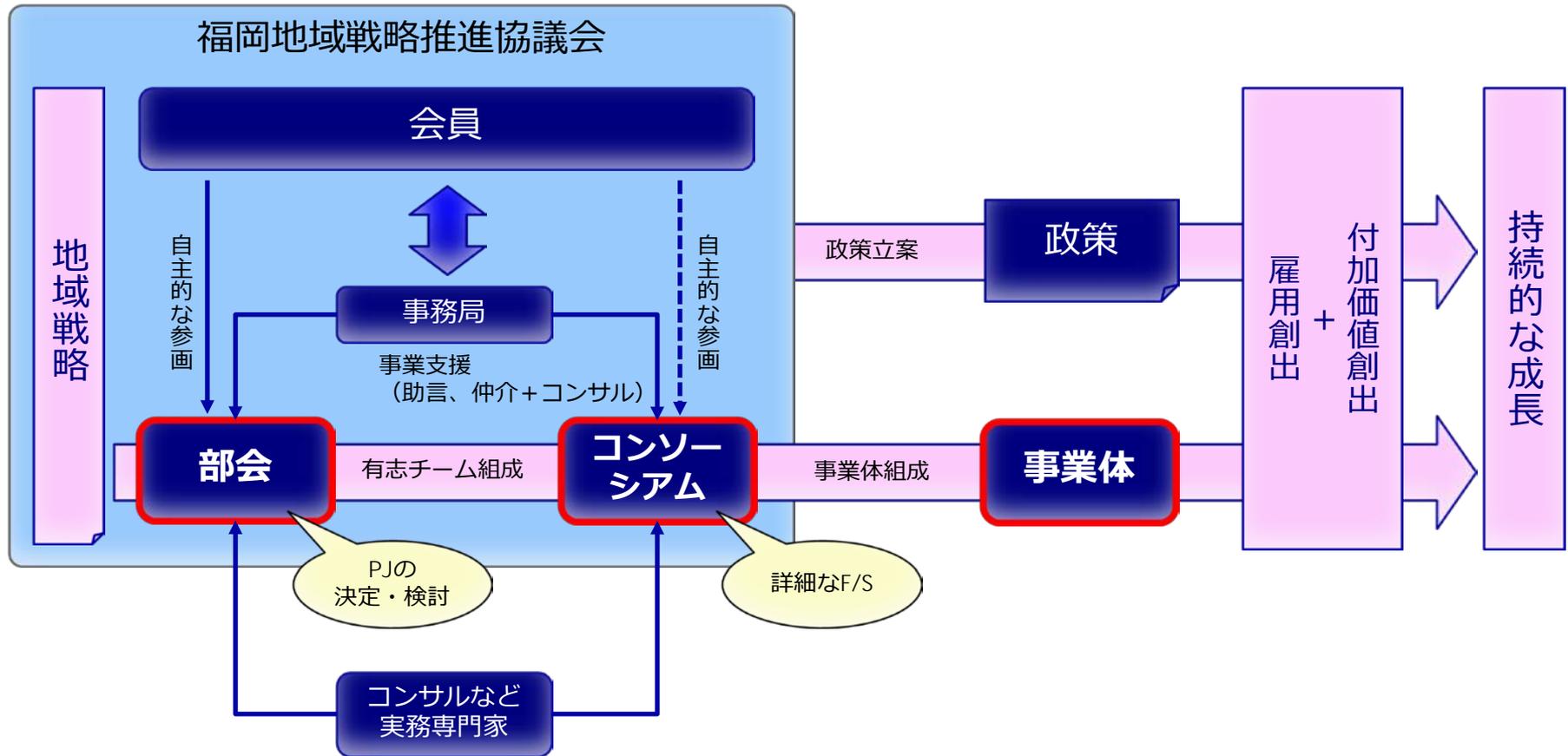
■ MICEを軸に、相互に連携する様々な事業を推進



事業化の基本的な流れ

■ 部会、コンソーシアム、事業体の三段階

部会での開かれた検討から、有志による詳細F/Sを経て、事業の担い手が決定



プロトタイプから社会制度化へのイノベーション・サイクル

■現在の社会制度が対応できなくなった新しい社会的ニーズに対応するサービス・モデルを創出する社会実験のプロセス

- 民間組織や非営利組織等の力でモデル形成を行い、民間資金を活用しサービス化を行う
- 最終的には事業化されるか、あるいは行政による社会制度として取り入れられることを想定する

